

農林水産省登録 第 22762 号
 性状：淡黄色澄明油状液体
 毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)
 消防法：第 4 類第 3 石油類
 有効年限：2 年
 包装：100m 巻×10

有効成分：(Z) -11-ヘキサデセナール・・・44.8%
 (Z) -11-ヘキサデセニル＝アセート・・・45.9%

コナガコン[®]は信越化学工業(株)の登録商標です。

特 長

- コナガ及びオオタバコガの成虫に作用し、交信攪乱効果により、コナガ、オオタバコガ雌雄間の交尾行動を阻害し、次世代の幼虫密度を抑制する性フェロモン剤です。
- 従来の殺虫剤に感受性の低下したコナガやオオタバコガにも有効です。

適用病害虫名および使用方法

作物名	適用場所	使用目的	適用病害虫名	10 アール当り 使用量	使用時期	使用方法
コナガが 加害する 農作物等	コナガ及び オオタバコガの 加害作物栽培地帯	交尾阻害	コナガ	ハウス：100～400m (100m リール)	加害作物栽培の 全期間	ハウス内の天井に 近い位置に 固定する。
コナガ、 オオタバコガが 加害する 農作物等			コナガ オオタバコガ	露地：100～110 (100m リール)		株上に沿い、 作物上に支柱等を用いて固定する。
				露地：200 本 (20cm チューブ)		適当な長さの支柱 等に取り付け、 圃場に配置する。

使用上の注意事項

- 本剤はコナガ成虫及びオオタバコガ成虫の交尾を連続的に阻害して交尾率を低下することによる密度低下を目的としているので、コナガ及びオオタバコガの発生初期から収穫時まで連続的に広範囲な地域で使用してください。
- 本剤は、発生密度の高い場合での効果は期待できないこともあるので、発生状況に応じてコナガ及びオオタバコガ用殺虫剤との併用をおすすめします。
- 本剤を露地で使用する場合は、次のことに注意してください。
 - 100mリールを使用する場合は、ポリエチレンチューブのまま作物の上方に、作物の生育の邪魔にならないよう支柱等を用い、たるまないように8～10m間隔で畝と平行に設置してください。
 - 20cmチューブを使用する場合は、50～80cm程度の支柱等の先端に20cmチューブを5～10本取り付け付けたものを、圃場10アール当り40～20ヶ所に均等になるように立ててください。
- ハウスで使用する場合は次のことに注意してください。
 - ポリエチレンチューブのまま施設内の天井に近い位置に、支柱等を用いて固定してください。その際、本剤が施設の被覆資材(ビニール、ガラス等)や骨組資材(鉄管等)に密着しないように注意してください。
 - 本剤使用中はフェロモン濃度が著しく低下しないように肩喚起または天窓喚起とし、夜間は喚気部分を必ず閉じてください。なお、喚気部分に寒冷紗等を張り、周辺からの雌成虫の飛び込みを防止すると効果的です。
 - 使用量は10アール当り100～200mを標準としますが、ハウス面積が小さい場合、喚気時間が長い場合等では効果が劣ることがあるので、所定の範囲内おの多めの両を使用してください。
- 設置の際、圃場の面積に応じてポリエチレンチューブを切断する場合は、必ずヒートシール部分を切断し、誤って充填部分を切断しないように注意してください。
- 本剤を包装しているはり合わせアルミはくは袋を開封したまま放置すると薬剤が揮散するので、必ず使用直前に開封し、なるべく使い切ってください。やむを得ず残った場合には、なるべく低温な場所に密封して保管してください。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合には、直ちに石けんでよく洗い落としてください。

安全使用上の注意事項

- 危険物第四類第三石油類に属するので火気には十分注意してください。
- 火気をさけ、直射日光が当たらないなるべく低温な場所に密封して保管してください。

コナガコン技術情報

コナガコンの薬効試験成績

1. レタスのオオタバコガ防除

(長野県営農技術センター:1998年)

試験場所:長野県北佐久郡御代田町

試験面積:2ha

処理時期:7月29日

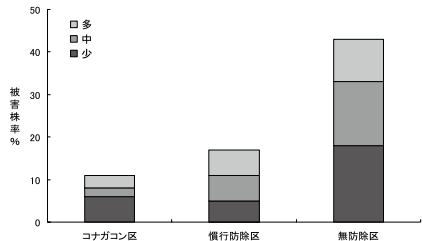
処理量:200本/10a

処理区:コナガコン処理区(殺虫剤3回散布減農薬区)

慣行防除区(殺虫剤5回散布)

無防除区

調査内容:被害株率(40株調査)



2. キャベツのコナガ防除

(群馬県農業試験場:1988年)

試験場所:群馬県吾妻郡嬬恋村

試験面積:8ha

処理時期:7月9日

処理量:100m/10a

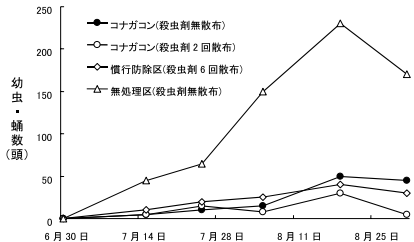
処理区:コナガコン処理区(殺虫剤無散布)

コナガコン処理区(殺虫剤2回散布)

慣行防除区(殺虫剤6回散布)

無処理区(殺虫剤無散布)

調査内容:幼虫と蛹の寄生数推移(40株当たり)



使用するにあたって

本剤は製剤から徐々に蒸散するフェロモン成分が圃場全体に安定して保持されることが重要です。そのためにはなるべく広い面積で使用することをおすすめします。

これまでの試験結果から処理面積が3haを越えると防除効果が安定します。しかし、小面積でも盆地状の地形や、圃場周辺に林や建物等、風を遮ることのできる圃場では防除効果が認められており、防風作物や防風ネット等を利用することで効果を安定させることができます。

施設内での使用の場合、特に面積の制約はありません。ガラスハウスやパイプハウスなど夜間密閉できる施設であれば小面積でも防除効果が期待できます。しかし、周辺の圃場にコナガ、オオタバコガの発生する作物が栽培されていると、そこから飛来侵入する危険があるので、換気部や出入り口を寒冷紗などで覆う必要があります。一方、昼夜とも換気したままの施設やトンネル栽培などでは、施設内だけの処理では効果が少なく、むしろ露地栽培に準じた大面積での処理をおすすめします。